

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0290400019		
法人名	社会福祉法人報徳会		
事業所名	黒石ケアサポートセンター		
所在地 (電話番号)	〒036-0537 青森県黒石市赤坂字池田136番地 (電 話) 0172-59-1135		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月19日	評価確定日	平成22年2月5日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	一部	2階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期6,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月 23日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	現在、協力機関として辞退があり、あらたに協力機関を検討中
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホ - ムは田園に囲まれており、リビナル - ムからは岩木山が一望でき、四季を感じながら入居者は居心地の良い環境で過ごされている。事業所独自の理念「和・話・笑・我・輪」は平成18年にホ - ム設立と同時につくられたもので、管理者と職員は理念を共有し、理念の実施に向けて一丸となって取り組んでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回運営推進会議が実施されていないと指摘されているが、未だに定期的開催が実施されていない。2ヵ月に一回開催されることが望まれる。食事を楽しむことの支援やプライバシーの確保についてはまだ改善されていない。事業所として出来ることから改善することが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	職員全員で自己評価を実施し、全体会議で個々の項目について改善策などを話し合い、サービスの向上に向けた取り組みをしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	運営推進会議が9月に一回だけ開催されている。早期に定期開催をし、メンバーの意見をサ - ビスに活かした取り組みが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	契約時、時間をかけてゆっくり説明をし、理解を得ている。来訪時家族から意見や要望を頂いているが来訪のない家族には、電話やホームだよりで近況を報告して意見を頂き、運営に反映している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町会の活動に参加したり、消防団と避難訓練を実施している。0のつく日の消防団の巡回など防災協力員と協力関係にある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をふまえ、事業所独自の理念をつくりあげている。地域の中で、一人ひとりが暮らし続けるサービスを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念をミ - ティングやカンファレンス、申し送り時に具体的に実践した事を話し合い、理念を共有して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ボランティアの受け入れや行事への参加等で、地域の方と交流が図られている。併設施設内には研修室も整備され、実践者研修等の実習生も受け入れており、活発的に認知症ケアの啓発に取り組まれているが、地域住民を対象とした認知症普及活動は行われていない。	○	今後は、地域の方と一緒に認知症についての勉強会を行うなど、認知症普及活動の実施に期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価や外部評価をする事の意義を説明し、職員は理解している。自己評価を職員全員で実施し、改善出来る所を話し合いながら改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は9月に実施し、意見交換や助言をいただいているが、定期的には開催されていない。	○	今年度は9月に開催されているが、メンバーも決めていることもあり、家族も含めて定期的な開催を望みたい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者には、運営の実態を報告したり、サービスの課題解決に向けて取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度については、本部より資料の配付があり、ホーム内で読み職員も理解をしている。必要な時には活用出来るよう体制を整え、支援している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止は、事業所の理念に基づくケアをし、入居者一人ひとりの尊厳を守り、虐待を見逃さないよう職員同士の声かけを行い、注意を払って防止に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学をしていただき、自宅への訪問もしている。利用案内書に沿って、わかりやすく説明し疑問点を尋ねながら、時間をかけ説明をして、理解と納得を得られるよう支援している。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一ヶ月に一回は家族へ健康状態と生活状況を面会時や電話等で報告している。金銭管理は預かり金を出納簿につけ、確認印を頂いている。又、3ヵ月に一回ホームだよりを家族全員に送付する時にも、生活状況等を報告している。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に意見を聞いたり、不満、要望等あるときは意見箱に投函出来る事を説明し、意見は運営に反映させている。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1～2回は法人の方針で、配置換えがある、入居者の方には同敷地内にいることを説明し、時々会いに来るということでダメージを最小限にするよう、チームで支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、新任、一般、中堅、リ - ダ - と階層別に計画され実施している。外部の研修にはホ - ムで本部に推薦し、本部が決定する。ホ - ム内ではOJTで知識、技術の習得に努めている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは協会に加入していて、協会の研修会に参加し交流を図っている。市内のグループホームを訪問したり、情報交換をしてサービスの向上に向けた取り組みをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサ - ビスを利用するまで、家族の面会を多くしたり、一緒に外出するなど、時間をかけて支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の生活歴から得意分野を把握し、持っている力を発揮してもらい、一緒に共感し、支え合う関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を聞き、本人の意向を確認し、本人が望む生活に近づくように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らし続けるために、入居前のケアマネや相談員、家族等必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成し、支援している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月ごとに見直しをしているが、症状に変化のある入居者は3ヵ月ごとに見直しをしている。又、変更が必要な場合は、随時家族及び関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成し支援している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お寺参り、散髪など、本人や家族の状況に合わせて、ホームの車両を使い送迎し柔軟に対応し、支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続して利用出来るように配慮し、適切な医療が受けられるように支援している。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しホームでの入居生活が困難な場合は、法人施設の応援を得て、状態の変化にともない家族、かかりつけ医、職員と繰り返し話し合いを行い、全員で方針を共有して支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人一人の誇りやプライバシーを損ねないように、言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては個人記録等は所定の場所に保管している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースに配慮しながら、長年続けている習慣を重視して、支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には入居者が食事の下ごしらえをする時もある。法人の方針で食事の雰囲気的大事にし、職員は食事介助に徹している。	○	職員は入居者と一緒に同じ食事を食べながら、入居者の食生活の情報を得るなど、楽しく会話をしながら支援する事が望まれる。
26	54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴日を設けているが、その他、週1回希望者には大浴場を提供出来る環境を整え、他の方と交流を楽しみながら、入浴する支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴から得意なものを把握し、クッションやふきん縫い、畑作りなど、それぞれの「力」を役割として張り合いを持っていただき、楽しみごとの支援をしている。		
28	58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、四季を感じて頂くためにも日常的に実施している。近くのスーパーへ買い物に行くなど、入居者の希望に添って戸外に出かける支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室は畳の部屋が多く、介護ベッドの使用はない。職員は身体拘束の弊害を理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は鍵をかける事の弊害を理解し、日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。そのうち一回は地元消防署立ち会いで行っている。地域の消防は0のつく日19時～20時に巡回している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立に基づいて、バランスよく献立を立て食事を提供している。水分は一人ひとりチェックをし状態に合わせて支援している。習慣として間食を望む入居者にはバナナ、りんご、プリンなどのデザートを取り入れ、支援している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内の感染症対策はマニュアルに沿って支援しているが、マニュアルは本や冊子からのコピーで、それを見て動けるようなものに、整備されていない。	○	マニュアルは本や冊子から参考資料として活用するのはいいが、そのままファイルに入れておくのではなく、ホ-ムに合ったマニュアルを作成し、活用していく事が望まれる。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングル - ムは広くゆったりとしている。共用空間は不快な音、臭気はなく、リビングル - ムからは広々とした田園風景が見渡され、居心地よく過ごせる環境で支援している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の位牌を持ってきて、毎日ご飯を備え、念仏を唱えている方もいる。自分の作った作品を飾り、居心地の良い環境で過ごせるように、馴染みのものを活かして、支援されている。		

 は、重点項目。